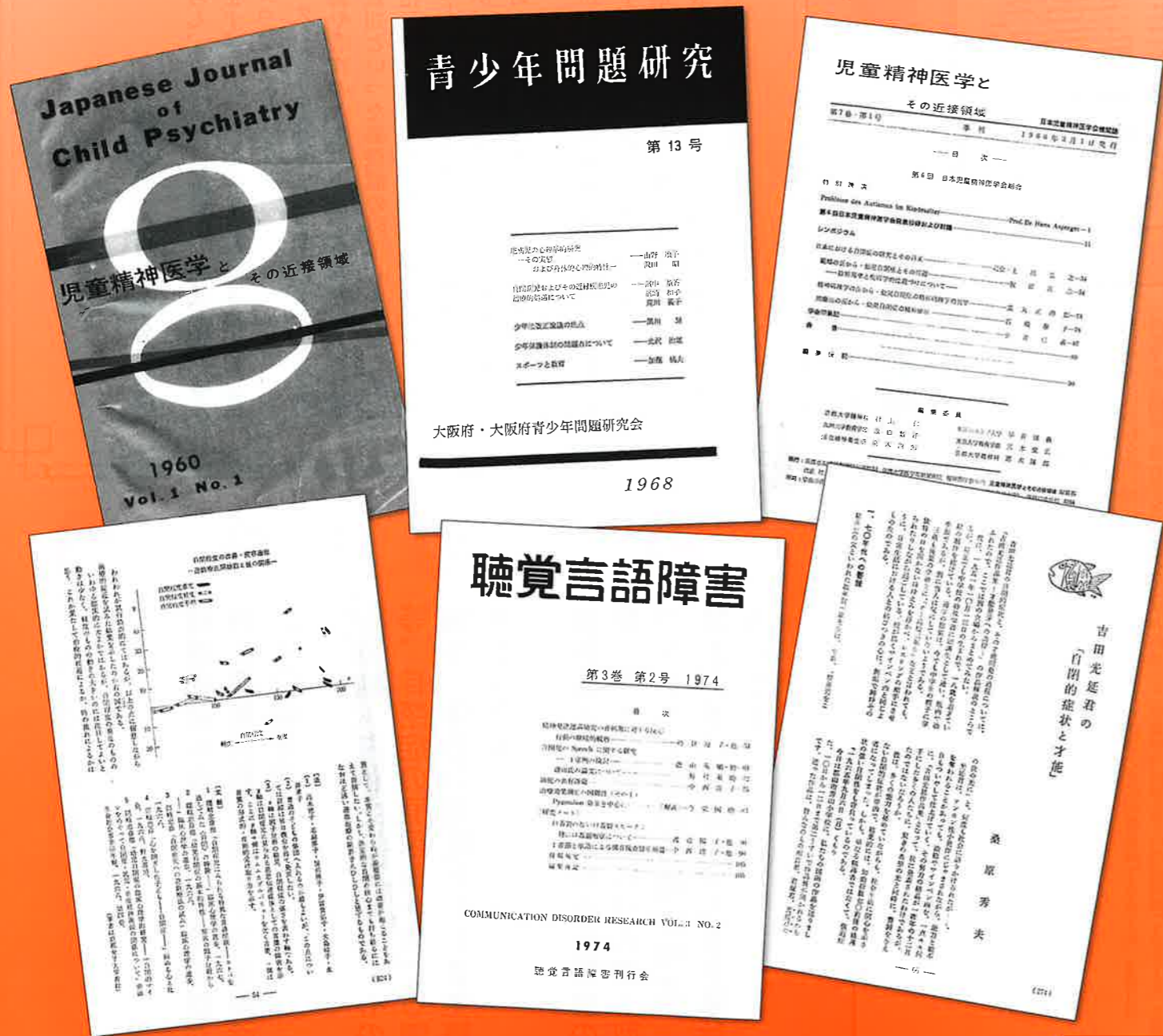


【日本現代史シリーズ 12】

戦後自閉症児教育 研究資料集 全3巻

- 編集・解題：細瀨富夫（埼玉大学名誉教授）
- 体裁：B5判・上製 約1,700頁 ISBN978-4-910672-30-4 C3337
- 定価：本体 95,000 円+税



クロスカルチャー出版



【日本現代史シリーズ 12】 戦後自閉症児教育 研究資料集 全3巻

- 編集・解題：細瀨富夫（埼玉大学名誉教授）
- 体裁：B5判・上製 約1,700頁 ISBN978-4-910672-30-4 C3337
- 定価：本体 95,000 円+税
- 巻構成
 - 第1巻 1960年～1968年
 - 第2巻 1969年～1972年
 - 第3巻 1973年～2004年
- おすすめ先：教育学、教育史、教育課程、教育社会学、教育心理学、精神医学の研究者等。
大学図書館、公共図書館。

好評既刊【日本現代史シリーズ】

【日本現代史シリーズ 1】

福島原発設置反対運動裁判資料 第1回配本 全3巻

- 編集・解説 安田純治（弁護士） / 解題 澤 正宏（福島大学名誉教授）
 - 体裁 B5判・上製・総約2,400頁 ●定価 本体 150,000 円+税 ISBN978-4-905388-44-9 C3332
- 『東京電力株式会社の公有水面埋立免許申請に係る福島県知事の免許についての審査請求書』、
『公有水面埋立免許取消請求事件 訴状』『福島第2原子力発電所原子炉設置許可取消請求事件 最終準備書面』、福島地方裁判所判決他収録。



【日本現代史シリーズ 2】

福島原発設置反対運動裁判資料 第2回配本 全4巻・別冊

- 解説 安田純治（弁護士） / 編集・解題・解説 澤 正宏（福島大学名誉教授）
 - 体裁 B5判・上製・総約1,700頁 ●定価 本体 88,000 円+税 ISBN978-4-905388-53-1 C3332
- 原告、下請労働者に関する基礎調査、訴訟資料、被告、原子力委員会、東京電力、福島県などの資料他収録。



【日本現代史シリーズ 3】

伊方原発設置反対運動裁判資料 第1回配本 全4巻・別冊

- 解説 藤田一良（弁護士） / 編集・解題・解説 澤 正宏（福島大学名誉教授）
 - 体裁 B5判・上製・総約3,500頁 ●定価 本体 160,000 円+税 ISBN978-4-905388-58-6 C3332
- 伊方原発行政訴訟【資料1】【資料2】【資料3】、伊方発電所原子炉設置許可処分取消請求事件 準備書面、伊方原子力発電所裁判証言記録、伊方発電所原子炉設置許可処分取消請求事件判決他収録。



【日本現代史シリーズ 4】

伊方原発設置反対運動裁判資料 第2回配本 全3巻・別冊

- 編集・解題・解説 澤 正宏（福島大学名誉教授）
 - 体裁 B5判・上製・総約1,700頁 ●定価 本体 90,000 円+税 ISBN978-4-905388-58-6-1 C3332
- 上告理由書、上告理由補充書（三）「加圧水型原発の終焉」、準備書面—スリーマイル島原子力発電所の事故は人類破滅への道を指し示す、最高裁、高松高裁判決部分、別冊に詳細な伊方原発関連年表を収録。



クロスカルチャー出版
学術出版

〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町 2-7-6
TEL: 03-5577-6707 FAX: 03-5577-6708
<http://crosscul.com>

取扱書店

刊行にあたって

細淵富夫（埼玉大学名誉教授）

戦後日本の自閉症研究は、児童精神医学はもちろん、小児科学、脳科学、発達心理学等多くの分野における中心的問題のひとつとなつていきます。しかし、1943年のカナリーの自閉症の「発見」から80年を経た現在、その理解は深まったのでしょうか。

自閉症の概念は紆余曲折を経て、今日の自閉スペクトラム症概念に至っています。この間、自閉症が統合失調症の早発型と疑われた時期、母親や家族の人格や不適切な養育により自閉症になるとする心因論が提唱された時期、言語や認知といった脳機能の障害によって自閉症になるとするラターの言語認知障害説がほぼ定説化した時期、そしてそのラター説が否定され、再び社会性（関係）の障害が注目された時期、そして現在のスペクトラム的理解がすすみ、心の理論仮説等が提唱された時期に区分できますが、まるで研究パラダイムの転換に翻弄されたかのような夥しい数の研究論文の流れをたどると、自閉症研究はこれからどこへ行くかとしていいのか、とても不安になります。

本書はこうした思いから、自閉症研究の黎明期から2000年前後までの研究論文を対象に、主要な論文をセレクトし時系列的に編集しました。それぞれの研究は何を明らかにし、何を誤ったのか。結果として誤った結論を導いた研究であっても、臨床記述の視点、仮説の背景、そして考察・分析の視点から学ぶことは、少なくありません。自閉症の教育研究史を俯瞰できる本資料集は、今後の自閉症研究に多くの示唆を与えてくれるはずですよ。

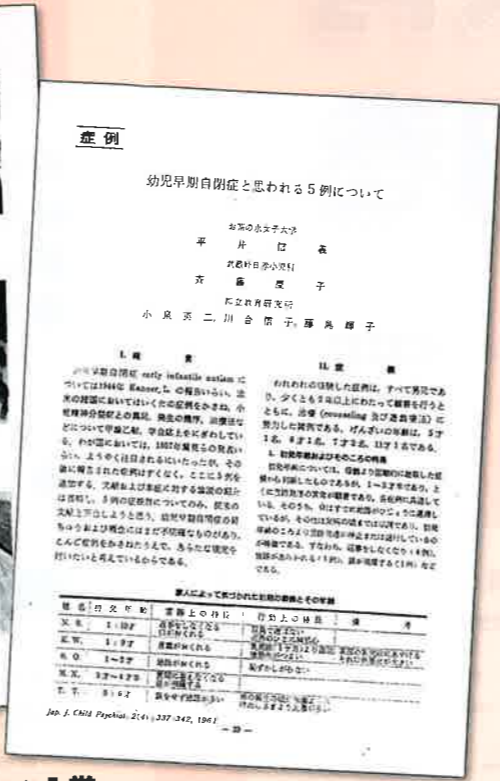
特色

1 戦後初期の自閉症研究黎明期から特別支援教育転換期までの主要論文約二六〇編を収録。

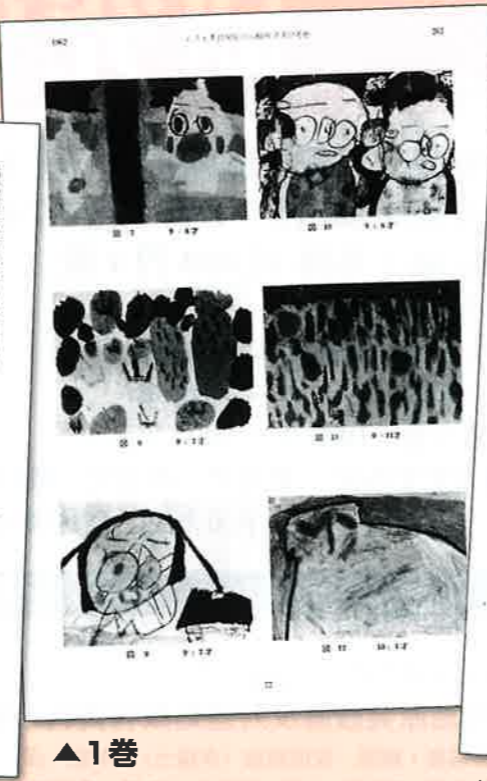
2 心因論、言語認知障害論、心の理論等、自閉症の原因論をめぐる議論や論争、学会の混乱をたどる主要論文をセレクト。

3 自閉症とは何か、総合失調症の早発型、カナリー型、アスペルガー型、スペクトラム等の自閉症概念、分類、診断基準の変遷に関わる主要論文をセレクト。

内容見本



▲1巻



▲1巻



▲1巻

自閉症児の研究
石井 哲夫

収録内容一覧

第1巻 1960年～1968年

- 「小児精神分裂病の症例—その病因、および病型に関する考察を中心として—」 鷺見たえ子・小林育子『児童精神医学とその近接領域』1960年、1巻1号
- 「わが国における児童精神分裂病研究の歴史的展望—児童精神医学発展の方向—」 高木隆郎『児童精神医学とその近接領域』1961年、2巻2号
- 「母子関係の障害により自閉症を呈した小児の1例」 川端利彦『児童精神医学とその近接領域』1961年、2巻2号
- 「重症白痴といわれる幼若期自閉症」石島徳太郎『児童精神医学とその近接領域』1961年、2巻3号
- 「幼児早期自閉症と思われる5例について」平井信義ほか『児童精神医学とその近接領域』1961年、2巻4号
- 「早発性幼児自閉症と考案—石井高明—」児童精神医学とその近接領域』1962年、3巻3号
- 「1自閉症児の精神発達の考察—石井高明—」児童精神医学とその近接領域』1962年、3巻4号
- 「幼児早発性自閉症と思われる一症例—臨床心理学的にみた観察—治療の追跡的研究—」 石井高明『児童精神医学とその近接領域』1962年、3巻4号
- 「小児の自閉様行動」石橋泰子『小児科診療』1963年、26巻4号
- 「自閉症児の両親について—黒丸正四郎ほか—」精神衛生』1964年、88号
- 「自閉症児の精神療法に於ける問題点—石井高明—」精神衛生』1964年、88号
- 「自閉症児の精神療法に於ける問題点—石井高明—」精神衛生』1964年、88号
- 「集団療法を通じてみた自閉症—自閉症処遇に関する一試案—」 大竹太郎ほか『児童精神医学とその近接領域』1965年、6巻2号
- 「自閉症と精神薄弱—平井信義—」教育と医学』1965年、13巻11号
- 「幼児自閉症の特徴—石橋泰子—」教育心理学』1966年、14巻12号
- 「自閉症児理解のための発達理論—自閉症児の理解と指導—」 石井哲夫『子どもの生活研究年報』1966年、1号
- 「自閉症児の治療的試み—金尾敦子—」子どもの生活研究年報』1966年、1号
- 「乳幼児期に於ける自閉症の諸問題（独文）」 Aspegel, H.『児童精神医学とその近接領域』1966年、7巻1号
- 「幼児自閉症の精神病理学的展望—黒丸正四郎—」児童精神医学とその近接領域』1966年、7巻1号
- 「幼児自閉症の精神療法—石橋泰子—」児童精神医学とその近接領域』1966年、7巻1号
- 「小児自閉症の臨床—黒丸正四郎—」花田雅憲『小児科』1966年、7巻5号
- 「幼児の自閉的精神生活について—早期幼児自閉症の現象学と人間学—」 中根晃『精神神経学雑誌』1966年、68巻11号

第2巻 1969年～1972年

- 「発達精神病理学的にみた自閉症—臨床経験からの仮説—」 隠岐忠彦ほか『安田生命社会事業団年報』1969年、5号
- 「幼児自閉症の再検討①—疾病論について—」小澤勲『児童精神医学とその近接領域』1969年、10巻1号
- 「ある自閉症児の治療記録（第1部）—小児自閉症の展望—」間中十『信州大学教育学部紀要』1969年、20号
- 「ある自閉症児の治療記録（第2部）—母親との面接—」簡井健雄『信州大学教育学部紀要』1969年、20号
- 「ある自閉症児の治療記録（第3部）—カンファレンスについて—」一考察—治療教育における教師の諸問題③—」 鈴木金弥『信州大学教育学部紀要』1969年、20号
- 「注目される小児自閉症—平井信義—」三共集報』1969年、560号
- 「自閉症児の教育診断に関する一考察—村田保太郎—」特殊教育学研究』1969年、6巻2号
- 「自閉症児の治療—治療的係りの現象学から—」中根晃『児童精神医学とその近接領域』1969年、10巻4号
- 「幼児自閉症の治療—遊戯療法を中心に—」隠岐忠彦『教育と医学』1969年、17巻9号
- 「自閉症児の治療記録第5部—治療過程の分析—」鈴木金弥『信州大学教育学部紀要』1969年、21号
- 「自閉症児の研究—石井哲夫—」児童心理学』1969年、23巻11号
- 「幼児自閉症の臨床心理学的研究—ブレイセラピーへの糸口—」 隠岐忠彦ほか『安田生命社会事業団年報』1970年、6号
- 「自閉症児—学校への適応状況と教育的措置—」渡辺静子『中学校』1970年、197号
- 「幼児自閉症の研究—自閉症児の知的能力—」中村剛『富山大学教育学部紀要』1970年、18号
- 「吉田光延君の「自閉的」症状と才能—」桑原秀夫『教育と医学』1970年、18巻3号
- 「幼児自閉症の臨床心理学的研究—自閉症サインをめぐって—」自閉症、乳児、重度精神薄弱の関係—」 隠岐忠彦ほか『臨床心理学研究』1970年、9巻1号
- 「情緒障害児の集団心理療法—自閉的な子どもの治療経過について—」 中山和子ほか『臨床心理学研究』1970年、9巻3号
- 「自閉症児の言語—」村田豊人『教育と医学』1970年、18巻10号
- 「ある自閉症児の治療記録第6部—象徴行動の分析—」鈴木金弥『信州大学教育学部紀要』1970年、23号
- 「自閉的傾向の子供の指導—中沢たえ子—」教育と医学』1970年、18巻12号
- 「自閉症児の治療教育—石井哲夫—」教育』1971年、21巻2号
- 「ある自閉症児の治療記録第7部—象徴行動の分析②—」鈴木金弥『信州大学教育学部紀要』1971年、24号
- 「オヘアト法による自閉症児の訓練—山口薫—」精神薄弱児研究』1971年、152号
- 「北海道における自閉症児に関する実態調査—昭和44年度アンケート調査とその成績—」 山崎寛資ほか『児童精神医学とその近接領域』1971年、123

日本の自閉症研究・教育がどのように進められてきたのか、自閉症の教育研究史が俯瞰できる論考約260篇を収録。1960年～2004年までに掲載された雑誌から珠玉の論考をセレクトし、概念や療育の変遷をたどれるよう工夫!! いま、戦後の自閉症児教育に新たな1ページが加えられた!!

【日本現代史シリーズ5】戦後教育改革の空白を埋める貴重な資料！ 教育刷新委員会総会配布資料集全3巻

●**解题** 高橋寛人(横浜市立大学教授) ●**定価** 本体90,000円+税
 ●**体裁** B5判・上製・約1,700頁 ISBN978-4-908823-05-3 C3337
 教育刷新委員会での審議録は、『教育刷新委員会・教育刷新審議会 会議録』全13巻(岩波書店)として刊行されているが、会議での配布資料は収録されていない！本書『教育刷新委員会総会配布資料集』では、教育刷新委員会の第1回～第80回総会(1946年9月7日～1948年10月15日)に配布された資料を収録。

【日本現代史シリーズ6】 教育刷新審議会配布資料集全4巻

●**解题** 井深雄二(大阪体育大学教授・奈良教育大学名誉教授) ●**定価** 本体120,000円+税
 ●**体裁** B5判・上製 約2,000頁 ISBN978-4-908823-27-5 C3337
 『教育刷新委員会総会配布資料集』(全3巻 2016年6月刊)に続き、本書『教育刷新審議会配布資料集』で教育刷新委員会・教育刷新審議会関係の現存する資料をほとんど全部復刻。昭和24年6月～昭和27年6月までの簿冊「教育刷新審議会配布資料等」全5冊と付録の簿冊「教育刷新審議会」1冊を収録。戦後教育改革の理念の生成を知る上での第一級資料が完結。

【日本現代史シリーズ7】戦後教育史研究の必携資料 戦後初期コア・カリキュラム研究資料集 第1回配本 東日本編 全3巻

●**編集・解题** 金馬国晴(横浜国立大学教授)/安井一郎(獨協大学教授) ●**定価** 本体90,000円+税
 ●**体裁** B5判・上製 約1,900頁 ISBN978-4-908823-38-1 C3337
 ●**巻構成** 第1巻 解题、資料リスト、北海道・東北・北関東 第2巻 東京・南関東 第3巻 北陸・甲信越・東海

【日本現代史シリーズ8】戦後教育史研究の必携資料 戦後初期コア・カリキュラム研究資料集 第2回配本 西日本編 全3巻

●**編集・解题** 金馬国晴(横浜国立大学教授)/安井一郎(獨協大学教授) ●**定価** 本体90,000円+税
 ●**体裁** B5判・上製 約1,900頁 ISBN978-4-908823-68-8 C3337
 ●**巻構成** 第4巻 解题、資料リスト、近畿1(滋賀・京都・大阪・奈良・和歌山) 第5巻 近畿2(兵庫) 第6巻 中国・四国・九州

【日本現代史シリーズ9】戦後教育史研究の必携資料 戦後初期コア・カリキュラム研究資料集 第3回配本 附属校編 全3巻

●**編集・解题** 金馬国晴(横浜国立大学教授) 安井一郎(獨協大学教授) 溝邊和成(兵庫教育大学教授) ●**定価** 本体90,000円+税
 ●**体裁** B5判・上製 約2,000頁 ISBN978-4-908823-60-2 C3337
 ●**巻構成** 第7巻 附属校編 東日本(北海道・東北・関東・中部) 第8巻 附属校編 西日本1(近畿1(京都・兵庫)) 第9巻 附属校編 西日本2(近畿2・中国・四国・九州)

【日本現代史シリーズ10】戦後教育史研究の必携資料 戦後初期コア・カリキュラム研究資料集 第4回配本 中学校編・附属校編 全4巻

●**編集・解题** 金馬国晴(横浜国立大学教授) 安井一郎(獨協大学教授) 溝邊和成(兵庫教育大学教授) ●**定価** 本体120,000円+税
 ●**体裁** B5判・上製 約2,200頁 ISBN978-4-908823-91-6 C3337
 ●**巻構成** 第10巻 附属校編補遺、境界編 第11巻 中学校編 東日本編1 第12巻 中学校編 東日本編2 第13巻 中学校編 西日本編

【日本現代史シリーズ11】戦後教育史研究の必携資料 戦後初期コア・カリキュラム研究資料集 第5回配本 諸団体編 全4巻

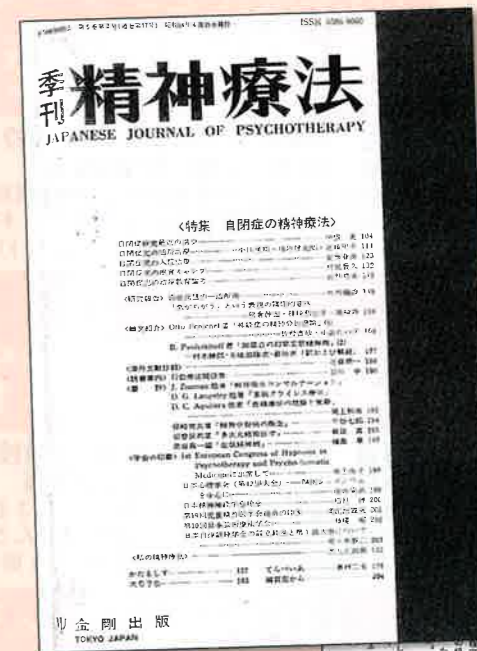
●**編集・解题** 金馬国晴/安井一郎/溝邊和成 ●**定価** 本体124,000円+税
 ●**体裁** B5判・上製 約2,400頁 ISBN978-4-910672-10-6 C3337
 ●**巻構成** 第14巻 諸団体 東日本 第15巻 諸団体 西日本 第16巻 補遺 一般校 第17巻 補遺 附属校

推薦します

自閉症研究の歴史は、まだ浅い。世界で初めて早期幼児自閉症を研究したカナリーの論文が発表されたのが、1943年である。第二次世界大戦中の時代であったので、日本でカナリーの論文が紹介されたのは、終戦後の1950年と言われている。そして1952年の日本精神神経学会で、驚いた金子が自己観察した1例の研究を報告したが、我が国最初の症例報告である。しかし自閉症とはどういう障害なのか、症例を共通理解するまでに、さらに数年の時間を要した。そして自閉症研究が本格的に始まるのは、1960年の日本児童精神医学会の創設からである。本資料集は、1960年に当学会の機関誌に掲載された論文から自閉症研究の主要論文が収録されている。まさしく自閉症研究の歴史の経緯を、時系列で把握できる貴重な研究資料である。特に興味をそそるのは、自閉症研究の黎明期の10年ぐらいに当時の第一線の研究者が、どのような学術的な知見を述べていたのかである。その後、一般社会でも自閉症に対する様々な情報が、まことしやかに流布されていく。そういう状況に当時の学術的な研究は、どのように科学的な研究の知見を発信したのだろうか。

2001年から2010年まで漫画雑誌に連載され、単行本として現在も読み続けられている『光ととも』(戸部けいこ著、秋田書店)という自閉症児を授かった家族を描いた作品がある。自閉症の要因が、保護者の子育てやテレビの視聴やテレビゲームなどと言われていた時代であった。漫画という手取りやすいメディアで発信した作品は、自閉症の理解啓発に大きな役割を果たした。この作品の単行本第1巻の帯に描かれた言葉は「育て方のせいじゃないで……」、第2巻の帯には「ひとこと、自閉症」と言えば、何の説明もいらぬ社会を願って！である。自閉症研究は、こういう切実な願いに応えることができていないだろうか。日本の自閉症研究の到達を総合的に検討することは、意義深いと考える。世界的な自閉症研究は医学及び心理学・生理学が主流であるが、日本では学校現場の実践研究や学校現場と連携した臨床研究が取り組まれているのが特徴である。日本の自閉症研究の到達点を認識して今後の課題を展望するために、自閉症研究に携わるものが活用できる価値ある研究資料である。

自閉症の概念形成の経緯を把握するための主要論文を収録 国立特別支援教育総合研究所 上席総括研究員 長江清和



▲3巻
 ▲2巻

- 第3巻 1973年～2004年
- 「自閉児の行動療法における課題学習手続(個人治療)のモデル・ステップについて」梅津耕作ほか『安田生命社会事業団年報』1973年、9号
 - 「自閉児の行動療法―症例の検討(1)―」松井治・中山登美江『児童精神医学とその近接領域』1973年、14・1
 - 「自閉児の診断に関する行動療法的考察」小林重雄・山形大学紀要(教育科学)1973年、5巻4号
 - 「B. Bettelheimの自閉症論について(1)」鈴木金弥『信州大学教育学部紀要』1973年、28号
 - 「自閉児の治療―教育に関する試み―」山上雅子『児童精神医学とその近接領域』1973年、14・2
 - 「小児自閉症に対する薬物療法」高木俊一郎『小児科臨床』1973年、26巻5号
 - 「自閉児の行動療法―症例の検討(2)―」中山治・中山登美江『児童精神医学とその近接領域』1973年、14・4
 - 「自閉児に対するオラント療法」大隈敏子・岩手大学教育学部研究年報1973年、21巻11号
 - 「自閉児の治療教育に関する一考察」加藤義男・佐藤静夫『岩手大学教育学部紀要』1973年、29号
 - 「B. Bettelheimの自閉症論について(2)」鈴木金弥『信州大学教育学部紀要』1974年、30号
 - 「自閉児における音定位づけを手がかりとする学習実験」梅津耕作ほか『安田生命社会事業団年報』1974年、10号
 - 「自閉行動の推移に関する考察」伊藤則博・山崎晃資『児童精神医学とその近接領域』1974年、15・2
 - 「名大精神科外来における自閉症児の実態について」若林慎一郎ほか『児童精神医学とその近接領域』1974年、15・2
 - 「自閉児のressに関する研究(4) 症例の検討」藤山英順・神野秀雄『聴覚言語障害』1974年、3巻2号
 - 「治療教育から見た自閉症の段階的判別について」青山むつ子ほか『大妻女子大学家政学部紀要』1974年、10号
 - 「自閉児の情動行動の特異性について―(自閉性)の概念の明確化の試み―」山上雅子『児童精神医学とその近接領域』1974年、15・3
 - 「幼児自閉症の折れ線型経過について」若林慎一郎『児童精神医学とその近接領域』1974年、15・4
 - 「自閉症児の治療と教育」山下功ほか『教育と医学』1974年、22巻12号
- ※ス・エスの都合上、各巻の次の年代は論文を割愛します。
 第1巻 1967年～1968年
 第2巻 1972年
 第3巻 1975年～2004年

現在、「自閉スペクトラム症(ASD)」と呼ばれる自閉症は、発達早期から発症する「神経発達症」の一つとされている。